

Prime Mover ENGINEERING

12号

東海大学機友会々報

東海大学機友会事務局
湘南校舎 動力機械工学科事務室
〒259-12 神奈川県平塚市北金目1117
☎0463-58-1211 内4321 FAX0463-59-8293
印刷 信友印刷株式会社 ☎03-3444-2481(代)



活動報告『新会則について』

機友会会長 河西正彦

本年度(平成五年三月迄)の活動も余すところわずかになりましたので本報を通じてこれまでの活動状況をご報告します。

前年度は機械工学科設立三十周年を迎え、康井主任教授を中心に学科をあげてご努力され盛大な記念式典を都内ホテルで挙行されました。本年は本学の建学五十周年を迎え全学あ

げての式典やパーティが学園各所で挙行されるという大きな節目の時期で、輝しくもあわただしい年度になりました。また工学部部長であった萩三三先生が附属の短期大学三校の学長に栄転され盛大なパーティが開催(五月九日)され、つづいて、康井主任教授が副工学科部長に就任なさるという大きな人事がありました。両先生のますます

のご活躍を期待します。

こうした中で本会の総意として建学五十周年記念事業に参加し、単科同窓会としての役割を果しつつ次のような活動を行ってきました。

- 一、新卒業生会員名簿および研究室紹介写真集を卒業記念品として贈呈(三月)
 - 二、広告募集および賛助会員募集の案内書の作成(五月)
 - 三、建学五十周年募金活動への参加(前年度から継続)
 - 四、機友会主催、在学生在原製作所 藤沢、工場見学会(九月)
 - 五、幹事会(理事会)の業務組織規定の制定と担当役員の選任
 - 六、機友会懇親会の開催(十一月三日)
 - 七、機友会会則の改定(平成五年一月七十二回幹事会で終了)
 - 八、幹事会(理事会)の業務組織規定の制定と担当役員の選任
 - 九、卒業生の職場訪問(巴工業、桂機械製作所)
 - 十、卒業生謝恩会に出席し、激励
 - 十一、会報十二号の編集発行
- これ以外の活動も多々ありましたが、これも発足十一年目の機友会が次第に充実してきたことの現れで、次年度に継続されていく項目も多岐にわたってきています。
- これらの中で会則の改定は三年がかりで最も時間を費やした議題で毎



水と空気と環境の明日を考える...

荏原製作所

荏原グループ

荏原サービス・荏原インフィルコ・荏原プラント建設
松坂貿易・荏原環境エンジニアリング・荏原電産
.....
他19社

月一回の幹事会にいつもあがりまして、改定の原案は平成二年十一月総会で承認された範囲ではありませんが、さらに一つ一つの条文を慎重に検討し、過去の経験からの問題、将来の会の有り方等、議論に議論を重ねまとめました。

いくつかの改定内容について説明します。

一、会員の資格に「名誉会員」を加えた。

一、役員の中に「名誉会長」、「顧問」および事務局長、会計局長を置いた。

一、役職の名称を変更した。
「幹事」を「理事」、「代議員」を「評議員」、「監査」を「監事」とした。

一、「監査委員会」を設置した。

一、事業の範囲「学校法人東海大学」として九州東海大学との協力も可能とした。

一、総会の議決事項及び議事録の項目のついて明文化した。

一、その他「事業」の項を第二章で示した。(詳しくは本報掲載の新会則をご覧ください)
一、事業の中に「機友会賞授手」を明文化した。
一、本改定会則は平成五年四月一日から施行する。
次に幹事会の規定ですが、会活動の中心をなすこの実行組織の業務内

容を明文化して新たに「理事会業務分掌規定」を制定して、運営活動の活性化および円滑化を図りました。
このように本年度は精力的な活動をしてきました。本年十一月二日は、総会が開催されます。万障お繰合せ

の上、是非ご参加いただき、会の運営や活動について活発な、議論を展開していただきたいと思ひます。
今後とも皆様のご協力をお願いし、まして簡単ではありませんが、活動報告とさせていただきます。

学校法人東海大学建学五十周年

50年の歴史を振り返ると共に、次なる50年へ向けて新たなスタートを

学校法人東海大学は一九九二年建学五十周年を迎え、十一月一日に湘南校舎において建学五十周年記念式典が挙行された。

午前十一時から二号館大ホールで建学記念式が行われ、開会の辞で松前紀男東海大学学長が「社会に対する新しい役割を担う門出としてその



責任と、社会に対する役割、この想いを新たに、新しい波、風を起して歴史の創造に勇気をもって邁進することを誓う」と挨拶を述べた。
続いて松前達郎総長が「松前重義前総長が多くの同志と共に、世界平和と人類の幸福に寄与せんとする人材の育成を目指して創設した本学園の歴史と建学の思想を改めて確認すると共に、混迷した時代の今日、今更以上人類社会の発展のために努力を続け、建学の精神を今後も教育実践の中に生かしてゆかなくてはならない。我々は力を合わせてこの大事業に取り組んでゆかなければならない」と式辞を述べた。来賓祝辞では、鳩山邦夫文部大臣の祝辞が坂本弘直文部省事務次官より紹介され、V・A・サドビーニチイロシア共和国口モノソフ記念モスクワ大学総

長、ジェローム・B・コミサー米國アラスカ州立大学総長、三沢正伸東海大学建学祭実行委員長がそれぞれ祝辞を述べた。
続いて、指揮・加宮令二郎常任指揮者および管弦楽研究会による「チャイコフスキー大序曲一八二二年」の演奏が行われ、香取草之助理事の閉会の辞で式典を終えた。

十一月一日、午後一時からは湘南校舎総合体育館において東海大学建学五十周年記念レセプションが盛大に開催された。同レセプションではこのほど決定した学園のシンボルマークが初めて公開され、松前紀男学長により発表、紹介が行われた。
また十一月五日午後六時から、東京・港区の新高輪プリンスホテルにおいて、国内および国外の諸教育機関、政・財界などからの多数の来賓が出席する中で東海大学建学五十周年記念祝賀会が盛大に行われた。このほか十一月一日の建学記念日を中心に、学園五十歩の歩み展、モスクワ大学展、樺能など多くの建学五十周年記念事業が開催された。

この建学五十周年記念式典には本機友会からも河西会長、伊藤副会長、小杉幹事が招待された。なお本機友会は既に会員の皆様にもご案内のよう募金活動その他で建学五十周年記念事業には積極的に協力している。



—美しい環境を人類の共通財産として—
エバラ
荏原インフィル株式会社
〒108 東京都港区港南1-6-27 ☎03-5461-5111

卒業生 佐藤百一(S48卒) 河合明比古(S51卒) 小木曾信哉(H3卒)

浄水・用水処理 水質汚濁防止 廃棄物処理 悪臭防止 化学装置 自動制御・測定・分析機器 医療用具・医薬品
水処理・工業薬品、その他化学製品 環境関連事業

大学の中味が変わる・DREAM(夢)を!!

工学部動力機械工学科 主任教授
第二工学部機械工学科



康井義明

私立大学は今、大学自身の自己点検・評価をすることによって、大学の本来の役割と社会的責任を一層果たすことが求められています。当然学部学科にとっても活性化、改革、発展のために様々な視点から検討を行わねばなりません。

一九九三年度より東海大学は他大学に先立って全学部で大幅な新カリキュラム改訂実施を行います。学生がゆとりをもち、かつ真摯に実効ある学問を履修できるような卒業単位数を一二四単位に定めました。また、文理融合の教育姿勢を更に進め、他学部他学科科目の修得にもフレキシブルに対応できるように配慮された構成となっています。

このようなカリキュラムの改善と同時に、教師はシラバス(授業計画)を積極的に提案します。すなわち毎回の授業テーマとその内容、履修のポイントについて詳細に記述した手引を履修学生に提示することによって、学生は授業内容の理解、検討ができ、教師間では授業の手法、進度、改良を議論できるようになります。また学生側からも内容の理解度や授業全般についての提言をしてもらう等の授業評価が試みられます。教学におけるツウエイ・ナヴィゲーション・システムを作ることであります。

学内外における教育研究活動と有為な学生を育てる使命がある以上、それらの内容、方法、到達手順など細部にわたってより良いシステムの構築化を計る必要があります。大学は設置基準の改正(一九九一年)が行ないました。既存の枠にとらわれず、学問の深遠を求め、学術的な研究教育機関として駆動しなければなりません。

教育現場でのこうした試みは他のいくつかの中規模大学で実施されようとしています。大規模有力大学では既存の姿勢を打破し難く検討調査の研究段階が多いのが現状です。しかし本学では着実に先陣的に変革が押し進められようとしています。

去る二月十六日、動力機械工学科四年生二百余名の卒業研究発表会が行われました。十一会場にわかれての公開発表は学生にとって晴れのプレゼンテーションです。学会講演にも劣らない内容で、質的にも形式的にも大変素晴らしい

イベントでした。終わってみると教職員、学生双方にとって、これまでの苦勞努力が報われ、四年間を振り返り感慨ひとしおでした。

大学での様々な教育改革が叫ばれている中、その指標を明確にしなければなりません。要は夢を抱いて入学した学生が四年後に自身の修業成果を十分に確認し満足できることが大事であり、そのための教育授業活動のプロセスに対して一コマ一コマに改善工夫がなされれば良いのです。改革を必要とする原点は何かを十分見据えなければ社会の付託に応えることはできません。教育成果は基本的に地道な活動努力の積み重ねでのみ得られます。

過剰なパフォーマンスは要りません。しかし学科全体の研究教育に対する前向きな姿勢や、教員一人一人の研鑽成果、有機的な業務協力関係の状況をもっと広く学内外で認識されるようにするための工夫は必要です。社会や卒業生OBに対し頼りになる優れた研究機関であることも知ってもらえるようになります。

大学が変革すれば学科も変わります。学部学科が発展すれば大学も発展します。同床同夢です。

動力機械工学科は今回の新カリキュラムを改訂するにあたって、数年前から検討研究を重ね、議論を尽くしてきました。卒業単位数の削減制約という中で、機械工学の基盤を保ち、かつ学生にとって有益な魅力ある専門教科を配置しま

した。インダストリアルデザイン、メカニカルフィジクス、バイオエンジニアリング、エネルギー変換概論など次世代につながる科目を新たに開設しました。既存の動力機械と学術的な境界領域分野との有機的な結合も試みました。

第二工機械については理と実践の分野の調和充実に努めました。

我国の構造不況が続く、なかなか先の見えない今、学生の進路と就職問題は学科にとっても課題であります。学生が希望する優良企業に就職するため指導業務やノウハウを蓄積し、また効果的な学生相談システムも作りたいたいと思います。真に実力の伴った学生を一人でも多く輩出していくことが学科の責務であると考えています。そのためには彼らにも厳しさを要求していかなければなりません。大学内のレジャーランド化等はカヤの外にしてこそ、意欲的に勉強したい学生に応えるものだと思います。

大学教育は未来に希望ある星(学生)たちの夢をかなえる大事業といえます。社会を動かす大学となるために人材育成は根幹であります。大学改革はDREAM(夢)作戦で必ずや成就します。Dはドゥループ、Rはレジディティ、Eはエステイメーション、Aはアクティヴ、そしてMはモーション。すなわち大学が躍動するための厳正公正な評価を繰り返して行くことであります。

東海大学にDREAM作戦を実施し、次世紀につなげようではありませんか。

いのち かけがえのない自然のために 社会生活環境を、トータルにプロデュース

EBARA 荏原環境エンジニアリング株式会社
EBARA ENVIRONMENTAL ENGINEERING CO., LTD.

〒108 東京都港区港南1-6-27 電話03-5461-6111

焼却プラントの設計・施工、各種環境改善施設の設計・施工および点検・整備

第六回機友会懇親会開催

恒例の懇親会が十一月三日 湘南校舎松前会館で開催されました。おりから建学五十周年で学園全体がお祭り気分、晩秋の心地よい晴れに恵まれて三々五々集った卒業生と家族の方々、懐かしい先生、教職員の方々が一堂に会し始まる前から盛りあがっていました。

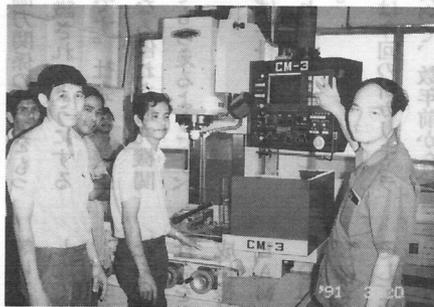


動力機械科・第二工機械科主任教授の康井義明先生が、本学の発展、機械科の充実に期待するお言葉を下さいました。次に本会の岡田副会長の音頭によって乾杯をし懇談に入りました。会場は料理・飲物がたくさん用意され、奥様方お子様方も大変お喜びで歓談していました。この間司会の小杉さんが機友会役員を紹介、続いて康井先生が教職員をご紹介して下さいました。ご紹介の中で金田先生もご参加いただけたと有難いことです。宴も佳境に入りいよいよお子様お待ちかねのビンゴゲーム歓声とため息の中、大はしゃぎでした。賞品は参加者全員が貰えほっとしたところで伊藤副会長の音頭で中締めとなりました。毎年恒例で開催されますので是非皆様方の多数御参加を宜しく願ひ申し上げます。



東海大学機械系四学科が国際協力事業団（JICA）からの要請で、一九八八年から一九九三年まで五年計画でタイのモンカット王工科大学（KMUTL）大学工学部機械工学科の教育および研究体制の充実のためのプロジェクトは、長期で派遣された飯島敏雄教授（二三年間）と橋本巨生産機械工学科助教（二年）ならびに短期で派遣された機械系四学科の十名を超える多数の先生方の指導や、約二億五千万円の教育・研究用機材の供与、またKMUTL教員の本学その他での研修（七名）などにより、教育体制も完全に出来上がり、研究体制についても今ではタイ国の機械工学シンポジウムでその発表論文の三十%をKMUTLだけで占めてしまうほど活発になり、五年前は機械工学の分野でタイで一番知名度の低かったKMUTLの機械工学科が、今ではタイで一番教育・研究体制を高く評価さ

タイ・モンカット王工科大学 ラカバンへの協力三月で完了



れ、新たに学科を改革したり、あるいは新たに機械工学科を創設しようとする他大学がKMUTLをモデルにすべく見学に来るほど有名な学科に成長した。

なお、現プロジェクトで最後の研修生が二名来学しており、ジャムロン講師（九十二年六月より九十二年三月まで九ヶ月間）が生産機械工学科の青木教授の元で粉体輸送の研究を、またタワチャイ講師（九十二年十二月より九十二年五月まで六ヶ月間）が飯島教授の元でエンジン内の流れと火炎伝播の研究を行っている。今回のJICAプロジェクトが三月で終了しても、東海大学とKMUTLとの学術交流協定、日本学術振興会、文部省奨学金などを利用して東海大学は今後も引き続きKMUTLの研究活動の充実に協力していく予定であり、既に三月末には学術協定によりソムチャイ助教が康井教授・森山講師の研究室へ、また十月にはアカデー助教が学術振興会の支援で萩教授・村上教授・前田講師の研究室へ派遣され研究を行うことが内定している。



松坂貿易株式会社

東京都港区虎ノ門1-20-10西松ビル 〒105 ☎03-3502-1271(大代)

『先端技術を世界から』

当社は荏原グループの中核商社です

世界の技術情報とマーケットニーズのインターフェース

卒業生 伊藤菊男、田島浩子 他5名

海外事務所 ドイツ・デュッセルドルフ、ニューヨーク

平成四年度卒研発表会・謝恩会開催

平成五年二月十六日(火)に平成四年度卒業予定の学生による卒業研究発表会が東海大学湘南校舎六号館にて午前十より開催された。発表会には生産機械工学科との合同で、一五六の研究発表が十一の会場に分けて行われた。どの会場でも活発な質疑応答がなされ、たいへん密度の濃い有意義な発表会であった。

乾杯は気を取りなおした西村君の威勢の良い音頭で行われ、みな充実した発表ができたと思えて、一気ににぎやかな祝宴となった。また大学生活を振り返り忘れられない思い出となった就職活動で、大変お世話になった平井弘三技師補をはじめとする職員の方々に対してお礼の言葉が述べられ、まるで卒業パーティーのような雰囲気であった。最後は林守仁副主任教授による三本締めで、盛況のうち謝恩会は終わった。

東海大学工学部動力機械工学科謝恩会



一方、第二工学科部機械工学科の平成四年度卒業研究発表会は二月十八日(木)午後六時より、代々木校舎四号館で開催された。発表内容が年々充実してきており、毎年三月には日本機械学会学生員卒業研究発表講演会で発表するまでに至っている。また恒例となった学生諸君による謝恩会が、卒

来賓を代表して康井義明主任教授から発表会の論評も加えながら祝辞が述べられ、また機友会を代表して河西会長より祝辞と機友会の意義および活動状況について説明があった。引き続き記念品の贈呈があり、「教育機器一式」の目録が学科に贈られた。

業式当日(三月二十五日(木))に湘南校舎前の東海大学同窓会館で行われる。

機友会表彰者

機友会賞は本会が、学業によく励み、かつクラスの団結に寄与した学生、あるいは特別な努力や学科のために非常に貢献した学生に授与される賞であり、今年度は卒業式当日に次の学生に授与された。受賞おめでとうございます。

機友会特別賞

篠島 順司、宮松 英統
市川 伸洋、

機友会賞

チューバックアミール
西島 孝生、埜 浩司、
西村 典久、平 貴之、
梶原 英彦、長谷川正人、
原田 隆行、松田 健、
小坂橋 修、今野 法彰、
杉本 裕則、石塚 知洋、
新谷 憲久、鈴木 昌英、
三井 謙一、村橋 徹



会員近況

【吉報】

ご結婚おめでとうウゴザイマス♥
去る、12月6日 我が機友会理事でもある昭和五十三年度動力卒の大矢 暁さんがめでたくご結婚なさいました。
ちなみに大矢氏は印刷会社(信友印刷株)を営んでおり会報の印刷ではいつもお世話になっていきます。



オ～ヤ(大矢)熱々デスネ♥

これを機に、機友会会報も益々すばらしくなることと、大いに期待しています。
末長くお幸せに!

昭和56年度

◎田口 寿尊(動力機械卒)

(航空自衛隊航空開発実験司令部 航空自衛隊の技術幕僚としてがんばっています)

東芝特約店(金属・新素材) 金属材料・新素材・金属CVD装置・半導体用ガス・各種設備(設計・施工)の専門商社

ウエキコーポレーション

《旧社名：ウエキガス科学株》

本社 〒146 東京都大田区久が原5丁目33番10号
TEL(03)3753-2211 FAX(03)3753-7117
支店：北関東・相模原 事業所：泉・姫路・北九州・大分
営業所：仙台・横浜・大阪 出張所：厚木・浜松・埼玉

本社勤務 水口 直(S47年修士卒)
米国駐在 日向野 保雄(S52年卒)
米国勤務 奥山 俊英(S54年卒)

東海大学機友会会則

平成五年一月二十三日理事会決定

第一章 総則

(名称及び本部所在地)

第一条 本会は東海大学機友会

(以下「本会」といふ)と称し、

本部を東海大学湘南校舎動力機械工学科事務室におく。

(目的)

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、あわせて大学院工学研究科

機械工学専攻、工学部動力機械工

学科および第二工学部機械工学科

(以下「学科」といふ)の発展に

寄与することを目的とする。

第二章 事業

第三条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行なう。

(1) 会員相互の親睦、情報交換および研修等の事業。

(2) 学科および在学生の活動、行事の助成

(3) 会員名簿、会報等の発行

(4) 機友会賞の授与

(5) その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第四条 本会は学校法人東海大学の

他の機械系工学科および機械系同

窓会と協力して前条の事業を行な

うことが出来る。

(役員会の定数)

第四章 役員および役員会

第五節 役員

第八条 本会は次の役員をおきその定数は次の通りとする。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 若干名

(3) 評議員 各卒業年度毎に若干名

(4) 理事 多数

(5) 事務局長 一名

(6) 会計局長 一名

(7) 監事 若干名

(8) 支部長 各支部一名

二 前項の役員その他に名誉会長を一名および顧問若干名を置くことができる。

(役員会の定数)

第九条 役員は次の通りとする。

(1) 会長 本会の代表および理事

の議長を兼任し、本会の運営を

統括する。

(2) 副会長 会長を補佐し、会長に

事故ある時は、会長の任務を代行

する。

(3) 評議員 会員を代表し、重要事

項を審議決定する。

(4) 理事 本会の日常業務につい

て協議し、実行にあたる。

(5) 事務局長 本会の事務を行な

い、各部に対する適切な連絡を行

なう。

(6) 会計局長 理事会の方針に基づ

き、日常事務および会計を行なう。

(7) 監事 本会の事業および会計

を監査する。

(8) 支部長 支部を代表し支部の運営を統括する。

二 名誉会長および顧問の任務は次の通りとする。

(1) 名誉会長 本会の名誉代表となる。

(2) 顧問 理事会の要請により本会の運営を助言する。

(役員会の資格)

第一〇条 本会の役員は正会員とする。ただし名誉会長、顧問はこの限りではない。

(役員を選出)

第一一条 役員は選出は次の通りとする。

(1) 会長 評議員会の推薦により、

総会の承認を得る。

(2) 副会長 会長の任命による。

(3) 評議員 各年度の卒業生より互

選する。

(4) 理事 会長の任命による。

(5) 事務局長 会長の指名により、

理事会の承認を得る。

(6) 会計局長 会長の指名により、

理事会の承認を得る。

(7) 監事 会長の選出に準ずる。

(8) 支部長 会長の任命による。

二 名誉会長および顧問の委嘱は次の通りとする。

(1) 名誉会長 理事会の推薦により、

総会の承認を得る。

(2) 顧問 理事会の推薦により、

会長が委嘱する。

(役員会)

第十二条 本会は次の役員会をおき、その任務は次の通りとする。

(1) 評議員会

①会長、副会長および評議員より

構成される。

②会長の招集または、評議員の過

半数の要請が有る場合に開催

し、本会の重要事項を審議決定

する。

③評議員会議長は評議員の互選に

よる。

④評議員会の決議は出席評議員

(委任状を含む)の過半数によ

る。

(2) 理事会

①会長、副会長および理事より構

成される。

②会長の招集により随時開催し、

日常業務を協議実行する。

③理事会は各部会および各専門委

員会を設置し任務を遂行する。

④理事会は本会の目的を円滑に遂

行するため、細則および規定を

別に定めることができる。

⑤理事会の決議は出席理事(委任

状を含む)の過半数による。

(3) 監査委員会

①監事によって構成され本会の事

業および会計を監査する。

(役員任期)

第十三条 役員任期は3年とし、

再任を妨げない。

第五章 総会

(総会の招集)

第一四条 総会は評議員会の議決を経て会長が招集する。

二 総会議長は、出席会員の互選による。

(総会の議決)

第一五条 総会の議決事項は次の通りとする。

(1) 予算ならびに事業計画に関する事項。

(2) 決算ならびに事業報告に関する事項。

(3) 監査報告に関する事項。

(4) 役員及び会員の承認に関する事項。

(5) 会則の改定に関する事項。

(6) 会費に関する事項。

(7) 本会の解散に関する事項。

(8) その他会長が必要とする事項。

二 総会の議決は正会員の出席総数(委任状を含む)の過半数をもって決定する。

(総会の議事録)

第一六条 議長は書記を任命し、議事録を作成する。

(1) 総会の日時および場所。
(2) 会議の目的たる事項。
(3) 会員数および出席者数。(委任状を含む)
(4) 議事の経過の要旨。
(5) 議事別決議の結果。

第六章 会計

第一七条 本会の運営は会費およびその他の収入をもって行なう。

第一八条 会員は会費を納入するものとする。
(但し、会費の納入方法は別に定める)

第一九条 決算および会計監査は事業年度毎に行う。

第七章 支部

第二〇条 本会には次の支部をおくことが出来る。

(1) 地方支部
(2) 学生支部

第二一条 支部の規約は評議員会の承認を得るものとする。

第二二条 支部には支部長をおき、本部との連絡をとるものとする。

付則

一 会員の身辺に変更がある場合には速やかに事務局まで、報告しなければならない。

二 本会会則は昭和五十九年三月三十一日に一部改正し、同年四月一日より施行する。

三 正会員は十年会費は二〇、〇〇〇円とし、学生会員の会費は在学生中二、〇〇〇円とする。

四 本会会則は平成三年十一月三日の総会の議決に基づき平成五年四月一日より施行する。

理事会業務分掌規定

東海大学 機友会 総務部

制定 平成五年一月二十三日

(総則)

一 本規定は機友会組織の理事会の分掌する業務の範囲と責任を明確にし、内部管理体制の強化、組織の効率的運営ならびに会の円滑な推進をはかることを目的とする。

二 各組織は機友会の方針に基づき、それぞれ分掌する業務について積極的に企画、立案、推進する。

(業務分掌)

一 総務部 総務部は総会、評議委員会、理事会、その他の会の業務に関する事、大学・学科および他の同窓会との関係、ならびに一般総務、渉外、事務局に関する事

との関連業務を行ない、次の事項を分掌するとともに各部に対する適切な指示、指導、助言、援助を行なう。

一 総会、評議委員会、理事会、その他の会

(1) 会の準備・受付・召集・議事録作成に関する事

(2) 会の秩序・維持・保全に関する事

二 大学・学科および他の同窓会との関係

(1) 連絡・渉外に関する事

(2) 式典・行事に関する事

(3) 文書の作成保管に関する事

(4) 各種諸規定の整備・取りまとめに関する事

(5) 寄付に関する事

一 四 渉外

(1) 大学・学科および他の同窓会との渉外に関する事

(2) 警察・消防等その他渉外に関する事

一 五 事務局

切の窓口の業務を行ない、各部に対する適切な連絡を行なう。

(1) 渉外に関する窓口

(2) その他の渉外に関する一切の窓口

その他

(1) 大学・学科および同窓会との関係

二 財務部 財務部は会費等の収納および使途、予算関係、会計局に関する業務を行ない、次の事項を分掌するとともに各部に対する適切な指示、指導、助言、援助を行なう。

二 一 会費等の収納および使途

(1) 会費等の収納・調達に関する事

(2) 会費等の使途運用に関する事

二 二 予算関係

(1) 予算の取りまとめ、および編成立案に関する事

(2) 予算と実績の比較分析、予算管理に関する事

二 三 会計局

会計局は会費その他出納事務、決算書の作成に関する事、の関連業務を行ない、次の事項を分掌する。

(1) 会費その他の出納事務

(2) 収入金の受入・管理に関する事

(3) 支払業務に関する事

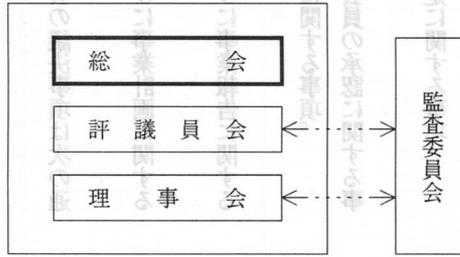


10月3日 箱根荏原清山荘にて

東海大学機友会組織図

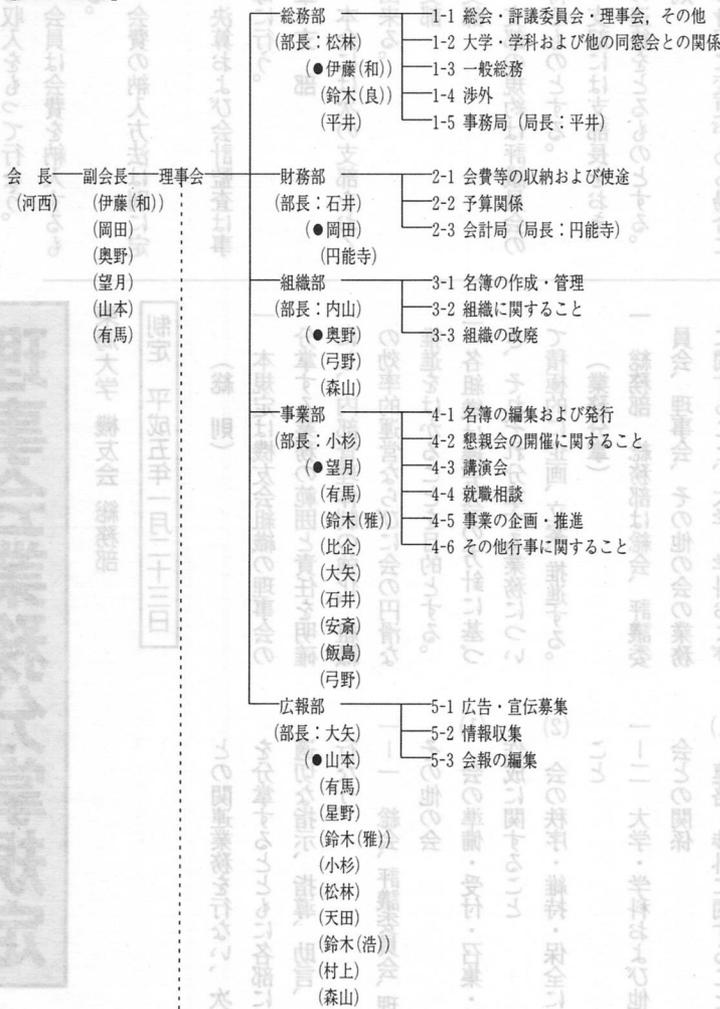
機友会 総務部

【議決組織】



注 評議員会：議長 奥野
 監査委員会：議長 佐々木(彰) 副：伊藤(昌)

【実行組織】



注 ●印の方は、副会長であり各部を担当する (平成5年4月1日)

- (2) 決算業務に関する事
- 三 組織部 組織部は会員名簿の作成・管理、組織に関する事、および組織の改廃について次の事項を分掌するとともに各部に対する適切な指示、指導、助言、援助を行なう。
- 三一 名簿の作成・管理
- (1) 会員の情報入手に関する事
- (2) 会員の名簿作成に関する事
- (3) 会員の名簿管理に関する事
- 三一 組織に関する事
- (1) 学生会員および賛助会員の勧誘

- (2) 地方支部に関する事
- (1) 地方支部設立に関する事
- (2) 地方支部役員選出に関する事
- (3) 学生支部に関する事
- (1) 学生会員との連絡に関する事
- (2) 学生会員への情報・宣伝に関する事
- (3) 学生会員の式典・行事に関する事
- (4) 評議員の選出に関する事
- 三一 組織の改廃に関する事
- 四 事業部 事業部は名簿の編集および発行、懇親会の開催に関する事

- (3) 名簿の取りまとめ・管理に関する事
- (2) 名簿の編集に関する事
- (1) 名簿の発行にかかる予算、見積りに関する事
- 四一 名簿の編集および発行
- 四二 懇親会の開催に関する事
- (3) 情報の収集・整備に関する事
- (2) 事業の予算編成に関する事
- (1) 事業の基本方針・計画・策定に関する事
- 四一 宣伝・広告募集
- (1) 会報・名簿の賛助会員等からの
- (2) その他、広告・宣伝に関する一切の業務
- 五二 情報収集
- (1) 会報・名簿等の情報収集に関する事
- (2) その他、情報収集に関する一切の業務
- 五三 会報の編集
- (1) 会報の編集に関する一切の業務

- 四一三 講演会
- (1) 研究発表会に関する事
- (2) 技術研修会に関する事
- (3) 一般講演会に関する事
- 四一四 就職相談
- (1) 会員の就職相談・窓口受付
- (2) 会員の就職相談に関する事
- (3) その他、就職相談に関する事
- 四一五 事業の企画・推進
- (1) 事業の企画・推進
- (2) その他、会長特命事項に関する事

- (4) その他、会長特命事項に関する事
- 四一六 その他、行事に関する事
- 五 広報部 広報部は宣伝・広告募集、情報収集・会報の編集に関する事
- (1) 会報・名簿の編集に関する事
- (2) その他、広告・宣伝に関する一切の業務
- 五二 情報収集
- (1) 会報・名簿等の情報収集に関する事
- (2) その他、情報収集に関する一切の業務
- 五三 会報の編集
- (1) 会報の編集に関する一切の業務



12月19日 代々木校舎にて

平成四年度十年会費納入者

平成3年度

MD-IAクラス

青木 伸爾 秋山 好文 石川 泰三 安藤 秀明
 安斎 典 石島 崇 大笠 和弘 岩澤 敦
 市川 洋光 江村 大輔 小澤 和博 小野 卓也
 大瀧 英樹 奥成 大輔 加藤 伸一 川口 清弘
 小沼 範夫 掛川 幸宏 木田 一隆 木村 学
 萱野 明広 栗原 克尚 栗原 義孝 合田 昌央
 河野 洋介 齊藤 昌伸 齋藤 学 坂本 博司
 阪田 淳 茂原 光伸 篠原 稔 新海甚太郎
 白石 勝大 鈴木 健司 鈴木 知美 高橋 善行
 関 智生 高橋 芳和 田中 心 筑井 昇
 田口 昌弘 田代 努 中村 純平 長倉 哲也
 中桐 正人 中村 圭一 西山 武志 濱川 達
 永井 隆之 西川 健治 平田 昌弘 福田 貴志
 濱家 誠二 半戸 政昭 藤間 康彦 本城 崇
 平尾 拓 副田 和久 増田 克也 丸谷 義孝
 藤永 寛 細川 雅昭 村田 秀丈 矢ヶ崎 勉
 松本 秀之 森本 忍 山岸 幸生 山地 裕介
 安田 義成 山田 昌成 山本 敬一 横山 洋行
 山中 良規 横森 広紀 米田 良雄 杉本 智宣
 吉田 祐治 渡辺 卓弥 杉本 智宣

MD-IBクラス

青木 秀之 安藤 秀明 高野 敏行 谷 明夫 津田 佳伸
 石川 泰三 石田 雅彦 徳永 英司 中島 拓
 伊藤 隆 岩澤 敦 大寺 敏昭 中村 文紀 濱谷 明治
 小澤 和博 小野 卓也 川口 清弘 木村 学
 木田 一隆 木村 学 坂本 博司 新海甚太郎
 篠原 稔 鈴木 知美 高橋 善行 筑井 昇
 田中 心 長倉 哲也 濱川 達 福田 貴志
 平田 昌弘 福田 貴志 本城 崇 丸谷 義孝
 増田 克也 丸谷 義孝 矢ヶ崎 勉 山地 裕介
 山岸 幸生 山地 裕介 横山 洋行 杉本 智宣
 山本 敬一 横山 洋行 杉本 智宣

MD-IIAクラス

大崎 崇 小沢 恒 平出 博一 牧野 崇 湊口 治彦 武笠 秀和
 小野寺隆浩 金子 隆一 松永 安広 水上 政義 村本 英之 山本 信也
 鬼頭 徹 九鬼 博行 矢島 則夫 山田 裕則 米谷 仁 若杉 一
 黒川 学 小館 直尊 横溝健一郎 吉川 哲央 渡部健太郎 井上 直哉
 後藤 辰也 坂井 巖 和氣 誠 渡部 雄司 松熊 岳春 山下 圭司
 洪谷 博文 清野 拓也 伊藤 和幸 外山 正昭 高橋 亮 北村 美樹
 高野 敏行 竹下 典嗣 狩野 善美 神谷 浩一 藤波 祐介 高巢 一哉
 谷 明夫 津田 佳伸 濱田 勲 湯田坂哲史 川島 雅行 横山 宏靖 NMクラス

MD-IIBクラス

秋山 良昭 安部 徹 天野 憲 有泉 雄一 上野 浩三 宇賀神幸弘
 石崎 俊彦 市川 弘 石井 寛義 石川 陽一 薄井 隆之 内田 雄三
 今井 裕二 宇内 敏 稲荷 利彰 岩波 誠一 梅田 広志 及川 研二
 太田 俊介 岡本 英樹 岩本 英樹 内田 和正 大川原 登 大木 隆行
 小沢 義幸 海洲 慎一 鈴木 裕 竹本 昭文 清水 直之 清水 康生
 鎌田 一史 田代 竜太 立山 雄一 新二市健治 高橋 祐次
 川西 素康 木村 勅 田村 一成 土橋 彰 田原 和彦 長島 隆
 久野 博史 河野 崇 土橋 貴 眞岡 俊哉 橋本雄一郎 林 勝一
 古村 彰彦 後藤 智広 出水 宏治 中田 信宏 半田 和明 深沢 周豪
 坂倉 康夫 庄山 修 中野 敏 中山 陽一 増田 英記 蓑輪 俊雅
 鈴木 昭範 瀨尾 崇之 成田 貴 西村 竹仙 本山 滋 吉田 栄治
 高橋 幸一 田胡 秀憲 平川 一朗 藤丸 哲弘 吉田 俊博 橋本 祐治
 豊田 延孝 中園 栄二 藤山 幸司 古澤 岳 福浦 賢一 小宮 正幸
 西尾 真一 長谷川直幸 松原 拓人 的場浩太郎

MD-IIIAクラス

新井 信一 石田 貴幹 市川 泰章 上田 道彦
 梅原 英司 江上 憲作 大久保公英 大西 浩之
 梅原 英司 江上 憲作 大久保公英 大西 浩之
 江口 泰介 奥村 知仁 押鐘 智 押山 英征
 柿中 大 鹿島 靖 川上 真司 川崎 英樹
 金山 博紀 川上 信 菊池 和弘 木村 一道
 木下 成昭 古山 真久 木村 昇一 窪田 真一
 佐々木道馨 下澤 峰彦 佐藤 健 佐藤 恒
 庄子 信郎 庄司 裕策 佐藤 祐宏 洪谷 良明
 鈴木 裕 竹本 昭文 清水 直之 清水 康生
 田代 竜太 立山 雄一 新二市健治 高橋 祐次
 田村 一成 土橋 彰 田原 和彦 長島 隆
 田村 一成 土橋 彰 田原 和彦 長島 隆
 田村 一成 土橋 彰 田原 和彦 長島 隆

MD-IIAクラス

青木 祐介 味戸 厚二 石川 幸男
 池上 賢 石川 幸男 内海 利彦
 石原 秀紀 内海 利彦

西尾 真一 豊田 延孝 高橋 幸一 鈴木 昭範 坂倉 康夫
 古村 彰彦 久野 博史 川西 素康 加藤 淳一 小沢 義幸
 海洲 慎一 鎌田 一史 田代 竜太 立山 雄一 新二市健治
 高橋 幸一 田胡 秀憲 平川 一朗 藤丸 哲弘 吉田 俊博 橋本 祐治
 西尾 真一 長谷川直幸 松原 拓人 的場浩太郎

長谷川直幸 松原 拓人 的場浩太郎

的場浩太郎



『水と空気と環境の未来』をテーマに
 電気・電子の先端技術を駆使して
 豊かな生活環境の創造に努力する...

エバラ

株式会社 荏原電産

本社：〒104 東京都中央区銀座1-3-1
 TEL 03-3567-2471 FAX 03-3561-1720

藤沢事業所 - 〒251 藤沢市藤沢4-2-1 品川事業所 - 〒108 東京都港区港南1-6-27 羽田事業所 - 〒144 東京都大田区羽田旭町11-1

会社紹介

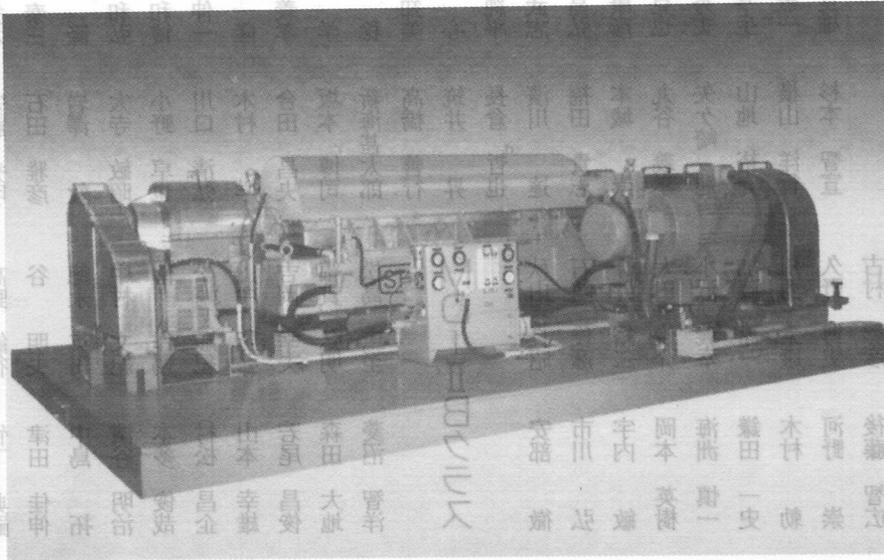
巴工業株式会社

巴工業株式会社は、昭和十六年五月に設立されました。昨年、会社設立五十年を迎え、現在の資本金は五億二千六十六万円、売上高四千億円強、従業員数四二〇名です。本社は東京の日本橋にあり、大阪支店の他、国内営業所が五カ所、海外営業所が三カ所、海外事務所が一カ所あります。工場は、東京都品川区に東京工場が、神奈川県大和市にサガミ工場があります。

遠心分離機のメーカー および輸入専門商社

巴工業には、大きくわけて二つの事業があります。一つは、会社設立時の目的であった産業用遠心分離機の製造・販売であり、もう一つは後に加わった工業原材料及び製品の輸入販売です。言い替えますと、産業用の分離機器・装置のメーカーと、工業分野の輸入を中心とする専門商社という二つの顔を持つ会社と言えます。

専門商社としては、昭和二十七年に米国ユニオン・カーバイド社から、日本で最初にポリエチレンを輸入したのを手始めに、欧米その他各国の



イ・ボンディングワイヤなどの半導体製造に関連する材料や機器、等様々な分野で使用される原材料や製品及び機器を販売しています。メーカーとしては、前記のように遠心分離機を中心とする分離機器及び装置を製造販売しています。特に主力製品である産業用遠心分離機では、日本で最も早くこれを手掛けたことで、以来永年にわたってトップメーカーとしての地位を保持しています。遠心分離機の基本原理は、物を回転させるとき作用する遠心力を利用して、効率的に物を分離しようとするものであり、この原理は研究室の小型のものも、また産業用の大型のものも全く同じです。しかしながら、産業用の遠心分離機はその用途によってさまざまな構造・機構をもっています。たとえば、当社の開発した世界最大のデカンタ型遠心分離機XMI1006(写真)は完全な連続処理が可能とするために、遠心力で物を分離する回転筒の中に、この回転筒と若干速度の異なるスクリーンコンベアを内蔵しており、回転筒とスクリーンコンベアと

α Sharples スーパー・デカンタ(横型)

有力企業との販売代理店契約を結び、現在では各種合成樹脂原料、カーボン・グラファイト・窒化ホウ素などの無機材料、シリコンや各種添加剤・離型剤などの化学工業薬品、ワイヤボンダやピンングリッドアレ

約により製造販売されており、「シャープレス」というブランド名をもっています。世界にはシャープレスを始めとして、アルファ・ラバル・ウエストファリア、バードなど著名な産業用遠心分離機のブランド

—— 産業用遠心分離機のトップメーカー ——

巴工業株式会社
TOMOE ENGINEERING CO., LTD.

本社 〒103 東京都中央区日本橋3-9-2(第二丸善ビル)
TEL. (03) 3721-4055
サガミ工場 〒242 神奈川県大和市上草柳193番地
TEL. (0462) 62-0511



ります。これを百八十キロワットのモーターで駆動し、回転数は一七〇〇rpm、遠心力は二〇〇〇G強（重力の二〇〇〇倍強）にもなります。また、デカンタ型遠心分離機はその殆どが回転筒を水平にし、回転筒の両軸を各々一個の軸受けで支えています。

このような遠心分離機で最も重要なことは、高速回転する軸受の精度や密封度の維持および処理物質による

の回転差を一定に保つために遊星ギヤが組み込まれています。すなわち、回転筒内で分離された物をスクリーコンベアで連続的に外部に排出する機構をもっているわけであり、この機構により完全な連続処理が可能となっています。

また、X M 11006は都市下水の処理工程で発生する汚泥を大量に濃縮するために開発されたものであり、既に東京都の汚泥処理場等で多数使用してもらっています。この機械の回転直径は一メートル強あり、回転部の自重が約十七トンあります（実運転時には約二十一トンにもな

活躍する東海大学卒業生

各部の摩耗への対策ですが、ジェットエンジン用のメカニカルシールや超硬セラミックなど最先端の材料や技術の応用により、他社が追従できないような商効率、高精度、高寿命の製品を作っているのが当社の自慢です。

当社と東海大学のご縁は非常に古くからあり、現在御学の卒業生は二十七名在籍しています。内、役員一名、工場長一名、部長・次長四名、課長四名と、要職にある者も多く、その意味では東海大学に学んだ人材が当

社を支えている、と申しあげても過言ではありません。機械系出身者は九名で、そのほとんどがサガミ工場に勤務しています。最も若い機械系の卒業生は平成二年三月卒業の平出茂樹君で、現在技術部機械設計課で遠心分離機の設計にその実力を発揮しています。当社の設計は、必ず機械一式を担当するのが特徴であり、部品だけ設計することはありません。それだけに苦勞も多く、入社後もう一度機械要素などの勉強をやり直す事もあるようですが、自分が設計した機械がその思想どりに機能し、稼動するのを確認する喜びもまた格別のです。平出君に続く若い力を是非当社に欲しいもの、と願っています。

最後に二月二十三日には機友会河西正彦会長、鈴木良幸理事および東海大学から飯島敏雄先生、森下忠衛先生、田能寺久行先生が、わざわざ当社を訪れて下さり（写真）、また本稿を機友会々報に掲載いただく機会を得ましたことを、関係者の皆様に御礼申しあげるとともに、東海大学のますますのご隆盛と、機友会の更なる発展をお祈り申しあげます。

卒業生の声

仕事は楽しく

巴工業株

（工学部機械工学科昭和四十二年卒業）

有馬 敬彦



入社当時巴工業には、東海大学の先輩が数多く活躍されており、後輩の私は厳しく鍛えられたと記憶しています。その後昭和五十一年営業部に転属になり、学生時代から目指していた設計業務と決別することになりました。

営業部の業務内容は、設計とは異質のもので、とまどいもありましたが、多くの人と会う楽しさがあり、それまでとは違った勉強ができたと思います。

昭和四十五年頃から巴工業も輸出がはじまり五十年代から急速に増え初めた為、私も海外出張に行くことが多くなり、多くの国々を訪問する事が出来ました。その中でも飯島先生がモントリオール大学赴任中何度かバンコクで御逢い出来たことは印象的でした。

明日から出張で中国を訪問致します。中国は初めてであり、又新たな人との出逢いが楽しみです。私は仕事を通して学んだことの一つは「仕事を楽しく行なう」ことであり、今後も仕事を楽しく行なうよう努力する積りです。

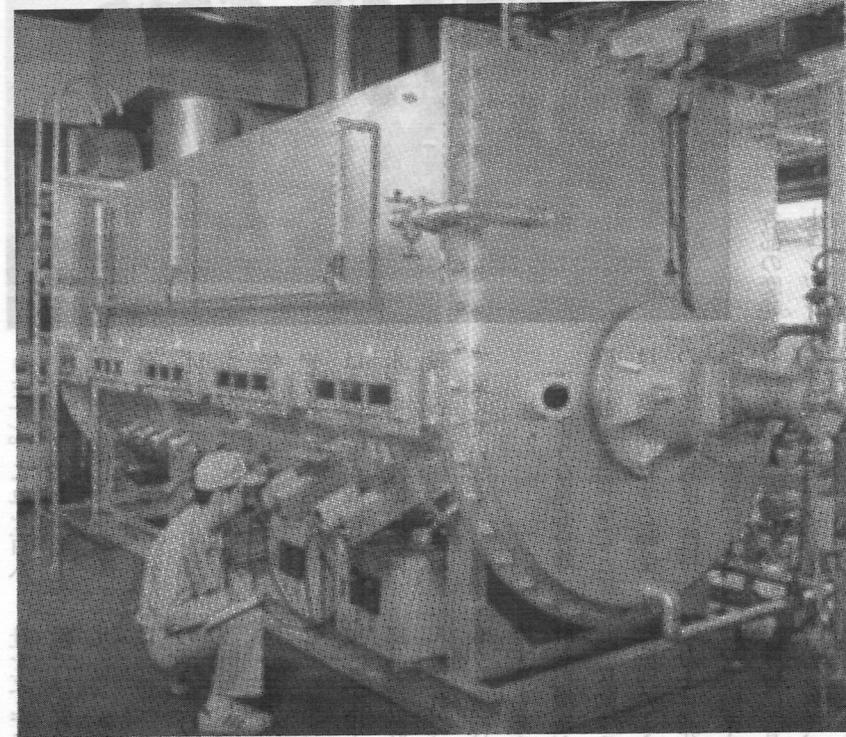
最後になりましたが、このたび機友会の副会長として、機友会活動に参加させていただくことになりました。微力ではありますが、機友会発展のため努力致したいと考えております。よろしくお願い致します。

会社紹介

株式会社桂精機製作所

（株）桂精機製作所は本社を横浜に、また工場を神奈川県綾瀬市と山梨県北巨摩郡に二つ、さらに支店や営業所を札幌から福岡まで全国一十三カ所にもつています。資本金は二億四六二五万円で、従業員数は三三九名です。

当社はガスより安全に、効率よく使っていたり、ためのガスの供給機器、燃焼機器および制御と安全機器、すなわちガス調整器、ガス漏れ警報器、ガス緊急遮断弁、ガス漏れ警報遮断システム、遠赤外線暖房機、LPガス温風暖房機、工業用ガス燃焼装置、熱風発生装置、ガス燃焼バーナー、アルミ溶解保持炉などを製造販売するガス機器総合メーカーです。



金山さんが開発した低NOxバーナーの燃焼実験

命は七年と法令で決まっております。その取り替え需要があるの、プロパンガスがある限り業績は落ちません。それが当社の基盤になっていきます。またそれは別にLPガスは家庭だけでなく、広く工業用にも使われるだろうと三十年前にガスハンドトーチバーナーからスタートして、燃焼機器、ガス冷却房システム機器など燃焼装置関連も手がけ、現在は日本の工業用ガス

家庭用ガスから産業用まであらゆるガス器具の開発・生産

当社の歴史は一九五一年に現社長、丸茂桂によって創業された丸茂製作所での家庭用LPガス調整器の

製作から始まり、五十五年に五万帯、五万トンだった日本のプロパンガス使用世帯が、その後増大の一途をたどり、今日では二千二百万世帯、千九百万トンにまで成長し、当社の業績もそれに比例して伸びてきました。

当社は今では調整器だけでなく、ガスの供給装置や安全機器などのもすべてを開発、生産しています。ところで、家庭用のLPガスは爛熟期に入っていますが、実際には器具の寿

CO2発生を減少させる新時代のエネルギー構想

バーナーのシェアのトップの座は当社が占めています。

九十年に日本政府が長期エネルギー需要見通しを発表しました。これに従い様々な政策が行われるわけですが、このデータによりますと、八十八年を基準に、経済成長率を四％に仮定した時の二〇〇〇年の省エネルギー目標が六％、二〇一〇年が十一・二％となっています。しかしCO2の環境面への影響が懸念される化石燃料の割合が八十八年が八十五％、二〇〇〇年が八十％、二〇一〇年が七十三・五％と非常に高いのです。これは誰が考えても容易なことではありませんが、政府はこれを実現するよう努力するでしょう。ところで全エネルギー量が増えていますので、化石燃料の割合はこのように減っても実はその使用量は逆に増えていきます。昨年六月ブラジルのリオで行われた地球サミットの席で、日本は「CO2の発生量を二〇〇〇年以降も九十年のレベルにキープする」と公約しました。これを達成するには、原子力に頼るか、あるいはCO2の発生量の少ない化石燃料にシフトするか二つの方法しかありません。単位発電量当たり



株式会社桂精機製作所

— 炎に賭ける —

技術を追求するガス機器総合メーカー

(本社) 〒231 横浜市中区尾上町1-8 TEL 045-651-5671 (代)
 (山梨工場) 山梨県北巨摩郡須玉町 (神奈川工場) 神奈川県綾瀬市

のCO2発生量は、石油をひとした
場合、亜炭一・四、無煙炭一・二、
プロパン〇・七八、天然ガス〇・六
五ですから時代は間違いなく天然ガ
スに向かっています。日本縦貫ハイ
ライン構想や、シベリヤやアラス
カから北京、日本などを経てオー
トラリアまでを結ぶアジア・太平洋
パイプライン構想が持ち上がってい
るのはその証です。

当社はCO2発生率の低い高効率
燃焼や省エネ技術の研究開発によつ
て地球の温暖化を見据えながら、こ
れからのガス産業エネルギーの更な
る躍進を目指しています。そのため



であたることを信条に掲げ
ています。このような当社
の精神に共鳴して当社に就
職した東海大学卒業生は総
勢八名で、このうち動力機
械工学科卒は五名で、佐野
彰君（七十六年度卒）、清
水源央君（七十二年度卒）、
村田陽二君（八十五年度卒）
および金山宏君（八十六年
度卒）はそれぞれ設計課、
技術課、開発課などに配属
されて、既にそれぞれかな
り大きな仕事を一人で任さ
れており、苦勞はしている

に現在神奈川工場内に今年
五月の完成を目指してガス
燃焼工学研究所の建設を進
めており、そこで産業用ガ
ス燃焼で世界のトップ水準
の技術を確立することが当
面の大きな目標です。

**独自の経営哲学
で社員の幸福を
追求する**

当社の会社運営の最大の
目的は、お互いの幸福をか
ちとることにあります。そ
のために個人の尊重や世界
一のサービス精神と向上
心、そして仕事に
最善で最高の方法



でしようが当社の中堅として非常に
活躍しています。また今年度は近藤
毅君の入社も決定し、四月からは若
い、新しい息吹を社内に吹き込んで
くれるものと大いに期待していま
す。これからも当社の理念に共感を
覚える若い諸君が東海大学から当社
の門をくぐってくれることを楽し
みにしています。

最後に二月十日に機友会の河西会
長、内山理事および飯島教授がわざ
わざ当社を訪問して、当社に働く後
輩を激励してくださいました。こ
こに深く御礼申し上げます。

在校生の声

前向きの姿勢で

（動力機械工学科二年）

磯谷 美智子



私が、この東海大学工学部動力機
械工学科に入学して、はや二年が経
ちました。

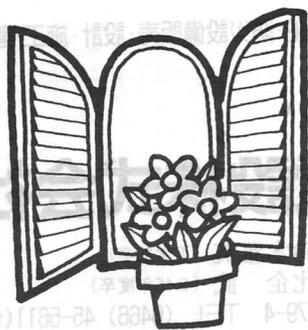
ちようど、大学生活の半分を終え、
改めて今までを振り返ってみると、
あつという間という気もしますが、
やはり様々なことのあつた長い二年
間であつたと思います。

四この学科には、車やバイクのこと
が好きで、実際に自分でもいじるこ
とのできる方がたくさんいらつしや
います。そんな中で、私は全くの機
械音痴なので、車やバイクなどと
言っている場合ではありません。で
すから、専門科目が増えるに従つて、
今まで聞いたこともないような難か
しい専門用語がどんどん出てきて、
とまどいや不安がつのつていくばか
りです。

私は、自分が何をしたいという
はつきりとした目的意識を持たずに
入学してしまい、さらにこの学年に
は、女子が私一人しかいないとい
うことも手伝って、学校を辞めてしま
おうと本気で何度も考えたことがあ
ります。

そんな意気地のない私が今こうし
てなんとか無事に二年間を過ごすこ
とができたのは、先生は勿論のこと、
良い友人に恵まれ、支えて頂いたお
蔭だと痛感し、改めて感謝の気持ち
でいっぱいになります。

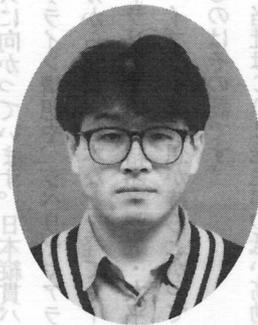
これから三年目を迎えることにな
り、勉強もますます大変になり、授
業内容をきちんと消化しきれぬかど
うか、勉強以外の色々な事について
も、就職についても、不安に思うこ
とはたくさんありますが、あまりく
よくよせず、いつも前向きの姿勢で
何事にも臨んでいきたいと思いま
す。



工場実習

(動力機械工学科三年)

安部 徹



私が一九九〇年に東海大学に入學してから、早や三年の歳月が過ぎようとしています。入学した当時は、希望と不安を抱いていました。それは幼い頃からの夢を実現することであり、これだけ多彩な科目を身につけることができるかということですね。現在では、その多くの科目を修得することによって、夢に一步でも近づこうと努力しております。又、大学という所は勉強だけでなく、人間関係つまり友人、先輩及び先生方とのつながりも学べるところでもあります。

会社荏原製作所藤沢工場内荏原総合研究所です。三週間の大まかな実習内容は、製図および試験場での研修であります。

製図においては、汎用ポンプの組立図を書き、また試験場では、ポンプの性能試験の研修を行いました。

本格的な製図は初めてで、とまどうことが多々ありましたが、所員の方々が懇切丁寧に指導していただいたお蔭で、自分にとっては満足のお陰が書けました。その時感じたことは、製図の授業と幾分違いはあるものの、大学での授業がベースになつていてることを痛感致しました。試験場においても、所員の方々にとても親切に指導して下さいました。製品物の性能をあらゆる角度から調べて、設計段階の値に近づけるために、たいへんな努力をされていることを、つくづく感じました。

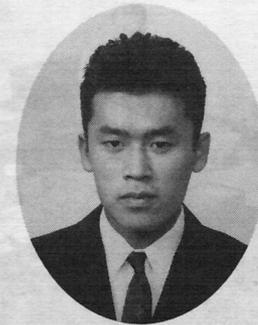
今回の工場実習で得た色々な知識や体験はこれからの卒業研究並びに残り少ない学生生活に、大いに役立つものと信じております。

最後に、生徒のために色々な努力をして下さる先生方が多い東海大学に入學できたことを幸に思っております。今後も是非このような機会を作っていただければと思っております。

後悔と試験の六年

(動力機械工学科四年)

西村 典久



私は少し他の学生と違った大学生活を送りました。六年間かけて卒業する、つまり二回留年してしまったことです。

大学に入るまで、自宅で生活していた私は、一人で暮らす事になり、自由を手に入れました。しかしそこには大きな落とし穴がありました。それは自由すぎる事です。学生という本業をおろそかにして、アルバイトや、遊びを優先して日々を送ったあげくに、留年をしてしまいました。さらに私は学業より自由を優先していた時、自分の不注意で右手の親指を落してしまいました。まさに絶望といった感じです。入院中は両親に本当に申し訳けないという気持ちで一杯になり、私のために学費を納めてくれ、月々仕送りも頂いた結果が、この有様なのかと後悔しました。私は真剣に今後のことについて考えました。ここで大学を辞めて働くか、それとも大学は続けようか、入院

中の一週間ずつと考えましたが、やはり大学は続けるべきだと決断し、気持ちを入れかえ今後の大学生活を充実させようと思えました。しかし現実には右手が使えない日々はとてもつらく嫌になつてしまったのです。しかし私はそれでも頑張りました。とにかく色々なことに挑戦し、今では何一つ不自由なく生活できる様になり、成績はあまり良くはありませんが、以後は順調に四年生になることが出来、就職も内定し、あとは卒業という所までできました。私の頑張りもありますが、ここまでこれたのはやはり両親や友人のおかげだと今では感謝する気持ち一杯です。

この六年間で私は色々なことを学び、それぞれのことに対処してきました。人生のどん底を味わったこともあります。サークル活動の様な楽しいこともありました。留年も二回経験しました。自由という世界にも落とし穴はあるということも学びました。しかし私は逆にこの様な経験をすることが出来て、本当によかったと思っております。人より二年多い大学生活は、人より多くのことを学びました。大学を辞めたらさつと後悔していたと思えます。先輩のみなさん、どんな失敗をしても一つのことをやり切ることが大切です。最後に、私の両親、動力機械の先生方、そして友人のみなさん、本当にありがとうございました。

NISSIN 一音と振動と熱を科学する一
自動車排気系製品・機能製品の研究・開発・製造

日新工業株式会社

取締役社長 加藤友彦

本社 〒242 神奈川県大和市上草柳172
TEL 0462(64)1221

テクニカルセンター 〒329-44 栃木県下都賀郡岩舟町1941-1
TEL 0282(55)6986

ダクト消火システム・消防・防犯・防災設備販売・設計・施工・管理

安全を買って下さい

東亜電設株式会社

代表取締役 鈴木雅英 (工学部卒)
取締役 比企 武 (S46年度卒)

〒252 神奈川県藤沢市高倉679-4 TEL (0466) 45-5611(代)

睡眠四時間の 学生生活で 得たもの

(第二工学部機械工学科四年)

大滝 克彦



東海大学に入学して早四年の歳月が過ぎようとしています。

この四年間は、私にとって何であつたのか今更ながらよく考えます。

私の家は清水市にあります。(大学の前身である航空科学専門学校が開設された地です。)仕事は、静岡県立沼津工業高校で教員をしており、したがって、昼間は工業高校の先生として生徒を教え(現在、機械科の一年生の担任をしています。)

夜は東海大の第二工学部機械工学科の学生として勉強をするというまったく正反対のことを四年間つづけてきました。そして、その生活は、と言うと朝六時半に清水の自宅を車を出て沼津の職場まで行き、夕方は自転車で沼津駅まで行き、JR線・小田急線と乗り継ぎ代々木の第二工学部の

キャンパスへ。そして、3時限目終了後、再び代々木から小田急線で小田原まで行き、そこからJR線の最終の沼津行き(二十時五十四分発)に乗り替え沼津駅(二十四時三十分着)から自転車で職場に行き、車に乗り替えるところちょうど午前二時で、睡眠時間約四時間というものでした。

普通の人が聞けば、ほんとうに異常な生活だと言しかありません。

ではこの異常とも言うべき生活の中で私を支えてきたものは何だったのだろう。私自身、今その答を出すのは、非常にむずかしいものがありますが、強いて言うならば、私の回りに、すばらしい友人と先生方がいてくれたことだと私は思います。そして、なぜ無理してまで大学に通わなければならないか。私には、ひとつのこだわりがありました。

それは、専門的な事を勉強したことがないのに、人にものを教えることができるかと言う点です。私自身、静岡の静岡大学で経済学や法学的な事は勉強したことがありますが、工学的な勉強は、高校までで、まったくと言っていい程、その方面の知識がないまま工業高校の先生になったので、非常に辛いものがありました。もちろん独学で、いろいろ勉強もしましたが、やはりこの点が気になり大学へ行くことを決心しました。十

知って十教えるのではなく、百知って十教えることができれば、幅広い知識の中でいろいろなことを興味深く教えることができるのでは、と考えたからなのです。でも果して四年間も通うことができるのか、その時は自信がありませんでした。

そして、入学試験当日、不安の中で試験を受けました。入学試験には、面接もありました。その時の面接官は、幸尾先生で、その時にこんな事をおっしゃいました。

「そんなに無理しなくてもいいのでは……。」これは私には絶対無理だよ、やめた方がいいよと言う言葉に感じられました。しかし、私はこの一言で、「よしやつてやる!!絶対最後までやり通してやる。」という気になりました。

始まりは、たくさんあったのかもしれません。しかし、終りはひとつなのかもしれません。この四年間で得たものは、私にとってはすばらしい財産です。そして、私を職場や学校で支えてくれた人達に感謝しつつ、教育という形で恩返しをしななければならぬと心から感じています。

この四年間で得たことを文章に書くには難しく、話しをするには、一日だけでは語りつくせません。また、他人に分けてあげることができません。

仕事場での辛かったことや失敗、また徹夜したり、揺れる列車の中や、誰もいない小田原の駅で電卓をたたきながら書きあげたレポートなど、今にしてみれば、懐かしいことばかりです。

良い先生方、友人に恵まれ、東海大学の第二工学部で勉強できたことは私にとって誇りです。心から感謝しております。私は間もなくこの大学を卒業しますが、これからも東海大学は向学心に燃える勤労学生に門戸を開放しつづけていただきたいと思ひます。

昭和39年度

◎鈴木 健治(機械工学科卒)

(鈴広)

デインギーヨット及びウインドーサーフィンのレンタルをやっているので来て下さい。

昭和42年度

◎大澤 嘉己(機械工学科卒)

(株)ツナシマハウスウエア

康井先生と同期生であり平成4年9月熱海で第2回目の同窓会を開き当時の機械、60名程集り楽しい一時を過しました。



代表取締役社長 真野 一徳

—技術者の夢とロマンを育てる—

荏原プラント建設株式会社

〒144 東京都大田区羽田旭町11-1 ☎03-3743-7270

(9名の東海大学卒エンジニアが活躍しています)

明石博史(50) 株本隆弘(51) 近藤明德(51) 鈴木敏之(58) 森本健治(59) 岩永英樹(60) 山南真一(61) 長谷川利幸(62) 佐藤暢彦(63)

風水力機械・空調設備・都市ごみ焼却施設・人工降雪設備・真空式下水道などの計画・設計・施工

学科だより

康井教授副工学部長に、 高本教授教務部次長に なる

動力機械工学科主任の康井教授は一九九三年四月より副工学部長に、また高本教授は教務部次長の要職に就かれました。両教授にはこれからは学科のみならず広く工学部あるいは大学全体を統括される立場になります。より一層の活躍を期待しております。

機友会より

ファクシミリ寄贈

動力機械工学科として長年の懸案であったファクシミリが、平成四年二月に機友会より寄贈され、事務室に設置された。これまでは十一号館五階の工学部長室のファクスを利用していたので、送信、受信にいろいろ制約があったが、これからは、身近なところで、しかもいつでも送信、受信できるようになり、学科事務、就職活動、先生方の国内、国外の学会活動および機友会との連絡などに非常に有役に活用させていただいている。

学科教職員一同、機友会に深く御



礼申し上げます。なおファクスの番号は左記の通りですので機友会の皆様も今後学科との連絡には大いにご利用下さい。

ファクス番号
○四六三二五九一八二九三

日本ガスタービン 学会功労賞受賞

日本ガスタービン学会は学会設立三十周年を記念し、ガスタービン技術や学会の発表に多大の貢献をした方々に学会功労賞を贈り、表彰した。本学科からは田中英穂教授、齋藤宗三教授、谷田好通教授および浅沼強元教授が表彰された。

機友会会員共々四教授に心からお祝いを申し上げるとともに、今後の益々の活躍を期待している。

編集後記

会報もスタイルを一新して出発する事となりました。これに合わせて、「会員近況」を大いに活用したいと思っています。皆さんが、楽しみにしてもらえような、いろいろなコーナーも企画しています。(スポーツ等の学内情報も含む)どうか、慶弔に関する情報・その他クラス会などの情報でも結構です。掲載させて頂きますので、係までお寄せ下さい。

〒108 東京都港区白金1-25-5
大矢 暁 宛

東海大学機友会 平成3年度会計報告

平成4年3月31日現在

収入の部	(単位 円)	支出の部	(単位 円)
前年度繰越金	4,090,093	事務諸経費	245,009
平成3年度生会費納金(273名分)	2,768,000	会費発行諸経費	2,387,725
既卒者会費納入金(11名分)	104,760	会員名簿(1989年度版)発行経費	1,976,442
会報8号掲載広告料(6社分)	539,600	卒業生動議事業経費	263,410
会報9号掲載広告料(11社分)	798,982	幹事会諸経費	136,000
懇親会費(28名分)および御祝儀	195,000	総会・懇親会諸経費	257,718
預金利息(横浜銀行分)	25,899	雑費	50,000
合 計	8,522,334	小 計	5,316,304
		次年度繰越金	3,206,030
		合 計	8,522,334

平成5年2月20日 上記監査の結果、相違の無いことを認める。

監査 佐々木 彰
伊藤 昌夫

昭和49年度

◎渋谷 雅典(動力機械卒)
(本田技術研究所・朝霞研究所)
二輪車の開発業務を行なっております。二輪、四輪共HONDA A車をぜひ使って下さい。

昭和53年度

◎山崎 隆道(動力機械卒)
(株三桂製作所)

先日、神奈川県だけの同窓会があったので家族で行って来ました。幹事さん大変でしょうががんばってください。

昭和57年度

◎泉 銀蔵(動力機械卒)

(東タイヤ工業(株)自営)
50周年をむかえた東海大学、たまにはキャンパスを歩いてみたいと思っております。機友会の発展をお祈りしております。

昭和58年度

◎村田 省三

(動力機械卒) (村田ボーリング技研)
おかげさまで、忙しながらも、元気でやっております。



荏原サービスは、ポンプ業界最大手の荏原製作所グループの一員として「水と空気と環境」をテーマに「世界の人々の豊かな将来のために最上の技術とサービスで広く社会に貢献する」ことを企業理念としている会社です。

お客様に感動を与えるテクニカルサービスを開発しています。

エバラ 荏原サービス株式会社

本社：東京都大田区羽田
資本金：4億5千万円
従業員：910名
年商：240億円
(平成4年度実績)

〒144 東京都大田区羽田旭町13-3 ☎03-3743-7311(代) 卒業生 柳川雅春(S45) 小杉伸一(S51) 鈴木浩司(S59)